翔 TOBU

№43 20 IX, 1983

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYŌDANKAI

アサマシジミ成虫の非常に早い発生記録例

吉村 久貴

1983年6月5日、富山県上新川郡大山町湯川谷（常願寺川上流）において、アサマシジミとしては極めて早い発生と思われる1♂を採集確認したので報告する。

当日、食草となっているイワオウギより終齢幼虫も見出されたが、同時に2、3齢幼虫も見つかり、はっきりした成虫発生時期は予測できない状態だった。

筆者が当地へ採集へ行った1979年には、6月18日で終齢幼虫を1980年には、松井 嵯峨井両氏が6月7日に、1982年には 嵯峨井氏らが6月6日に、それぞれ終齢幼虫を確認している。

雪溶けの時期が、成虫発生時期に大きく影響を与えるのは当然であるが、標高1,000m ほどの比較的高地に生息するアサマシジミとして、当日の成虫個体は極めて異例と思われる。

成虫の形態としては、飼育品に比べ大型であるが、石川県中宮産富山県早月産に比べ、上翅の黒化傾向の強いことは、飼育品に見られる傾向と同様であった。

また、現地には、まだ雪渓が残っており、新鮮なクモマツマキチョウ♂の飛翔も見ることができた。

なお、鹿児島の亀山氏の私信によれば、更に標高の高い糸魚川市白高地沢でも6月中旬に、成虫の確認がされることがあるそうである。

文献　翔№24　アサマシジミ特集号

白峰村におけるゼフィルス採卵記録

嵯峨井 淳郎

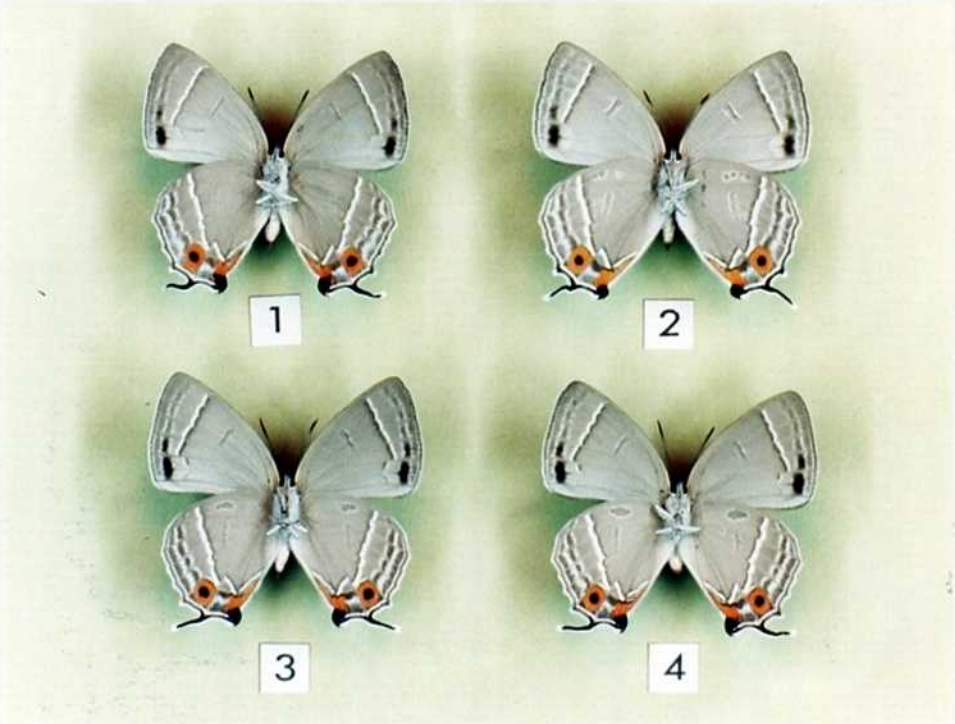
石川県石川郡白峰村にてゼフィルスの採卵を試みた結果、数種が得られたので報告する。
採卵者は野中 勝(N)，松田俊郎(M)，嵯峨井淳郎(S)の3名。
採卵月日は 1982-10-31，1982-11-14の両日である。

1. フジミドリシジミ　8卵 秋迦道 N.M.S　2卵 大杉谷 S
2. ウラキンシジミ　3卵 秋迦道 N.
3. メスアカミドリシジミ　1卵 市ノ瀬 N.
4. ジョウザンミドリシジミ　10卵 大杉谷 M.S　1番生卵 市ノ瀬 N.
5. オナガシジミ　7卵 大杉谷 S　10卵 市ノ瀬 N.M

オオミドリシジミの斑紋異常型

野中 勝

金沢市で採卵したオオミドリシジミ卵より写真の様な異常型が羽化しているので報告する。



写真No.1は、比較のための正常個体、No.2～4はいずれも後翅裏面7室に余分な斑紋の出現した異常型である。No.4では、中室にも小斑が認められる。

No.3.4は比較的狭い範囲で採卵した25卵のうちから羽化したもので、同一雌により産卵された卵から生じたものである可能性が高いと思われる。

筆者の経験では、他のゼフを飼育してこの種の斑紋異常に出会った事はなく、オオミドリシジミに特別出現しやすい異常型の様に思われる。

写真撮影して下さった吉村久貴氏に感謝する。

写真の説明

No.1	金沢市	湯涌	1982.V.9	羽化 ♀
2	〃	菱池	1983.V.16	羽化 ♀
3	〃	湯涌	1982.V.8	羽化 ♀
4	〃	〃	1982.V.9	羽化 ♀

1982年ゼフィルス最盛期の医王山

岩下 泰子

朝5時を過ぎると、自然に目が覚める。窓を開け空を見る。天気は良好――とすばやく服を着替えて医王山へと車を走らせる……

6月中旬からそんな毎日が、しばらく続いた。私はすっかりゼフィルス病にかかっていたのだった。

6時頃目的地に着く。嶮岨井氏が見つけたという菱広峠より少し下のアイノミドリのポイントである。しっとりと露に濡れた草木も、まだ目覚めぬのか、しんと静まり、わずかに小鳥たちのさえずりだけが聞こえてくる。

そんなさわやかな山の空気の中で金緑の妖精たちを待っていると、たいへん幸せな気分になってくるのだった。

アイノミドリたちは、時間がわかるのだろうか。7時までは、全く姿を現わしてくれなかった。7時より次々と現われ、あちこちで追飛を始め、あたりはアイノだらけになってしまう。

しかし、それも9時頃までのことで、その後しだいに姿をかくし始めたアイノたちは、9時を過ぎると一頭も見あたらなくなってしまうのだった。

アイノが出てくるまでの間、私は、あたりを散歩したり、ただぼんやりと考えごとをしたりして、山の空気を楽しんでいた。
ふと見ると、草むらの中に静かに羽を休ませているゼフィルスがいる。フジミドリだった。
注意してあたりを見回してみると、もう一頭の雄が今度は、羽を広げてじっととまっていた。生まれたばかりであるらしいその雄の羽は朝日を浴びて、すばらしく美しく きらめいていた。
近寄っても、逃げようともせず、竹倉氏がいてくれたら――と、もどかしく思いながら、しばらくの間見とれていた。
その日から私は、まずここへ来ると、草むらをざっと見わたし、そしてネットでたたいて回った。やはり、少くとも2、3頭のフジミドリが飛び立った。そのまま、ブナ林へまぎれ込んでしまうものもいたが、ほとんどがすぐに、また近くの草の上に羽を休めるのだった。
フジミドリは菱広峠より下では採れていないと聞いていたが、どうしたことだろうか。今年はフジミドリが多いのだろうか。
いずれにしても冬には、採卵が期待できそうである――と楽しみにしていたのだが・・・・・

やがてアイノの乱舞も終わると、少し下って重山道路付近で時を過ごした。ウラクロやアカシジミが、比較的楽に採集できるようであった。アイノを除いた種は、日中でもわりと多く活動しているようである。昼から夕方にかけて、ジョウザンの追飛も多数見かけた。
クリの花には、やはりゼフィルスが多く訪れるらしく、アサギマダラと共に、多数のジョウザン、ウラクロ、アカシジミが、大きなクリの木に集まっているのを見つけた。
雄々としたアサギマダラの飛び方と対照的に、ゼフィルスたちがチラチラと戯れる様はなかなか良いものであった。
道端の草の上では、ウスイロオナガやミズイロオナガが、ゆっくりと歩いていた。私の前を急ぎ足で下っていく黒っぽい蝶は、ウラキンであった。
そしてゼフィルスの他、アゲハやタテハ類も多く姿を見せてくれた。この時期の医王山は、全く蝶の宝庫といっても良いようであった。

そして――もう一つ今年は、ネットの宝庫でもあったようである。私よりも、更に重いゼフィルス病にかかり、朝夕、通っていた中西重雄氏をはじめ、妻の朱美さん、フジを求めてやって来た嶋崎井氏、

松田氏、それに休日には、竹谷氏や高平夫妻 ----- まるで蝶談会の集いの場であったようである。

その後、私は、松田氏のフジの産卵の情報を聞き、再びフジの蛹に挑戦した。今度は麦広峠にも足をのばしたが、残念なことに一頭も採集できなかった。
さびしい気持ちで小屋の前に立っていると、何物かの気配を感じた。顔をあげてみると、一頭のカモシカがジッとこちらを見つめているのだ。
あまりに近くにいるので、ただ呆然と見つめ返していたが、気をとり直して声をかけると、クルッとお尻を向け駆けていった。なぜかうれしさが込み上げてきて、思わずほほえまずにはいられなかった。

やがて、ネットに入るゼフィルスの羽も、だんだんかすれたものにかわっていく。
もう終わりだナーと、さびしくつぶやきながらも、楽しかった数日を思い出すと共に、はっきりと感じられるこの山の大自然に感動し、またうれしさが込み上げてくるのだった。

想い出ばなし その2 失敗つづき

金子 二久

人間は二種類に分けられると言う。「男と女」とか、「虫が好きな奴、嫌な奴」と言うのもあるし、「虫の好かん奴、そうでもない奴」等々ある。又、「他人が或る試みをやって失敗すると笑う人、感心する人」とここでも分けられる
僕は人の後をついて行って、標本箱一杯虫を並べる人より、人と違う事をやり失敗する人の方が好きだ。
AとBがヒサマツミドリシジミの終令幼虫の時期にビーティングに行き、一日に一頭しか採れなかったとCは笑っていたが、僕は笑わなかった。
そのCがナマリキシタバの幼虫を採ろうと中宮のシモツケを調査に行ったが、ホシミスジの幼虫しかいなかったと聞いても、僕は笑わなかった。

近かしい、しかしあまり気の合わない人物のDがパルナシウスを集めだした。（以下伝聞である。）
で、赤い星のある種を採らんと北海道に渡ったんだそうな。確かにいたが、数は少なく、その飛ぶのがあまりにも速く、耳元を飛び過ぎるとその翅の音まで聞こえるので、あれはタテハ科ではないかとまで想ったんだそうな。
彼は次の年の春、ウスバシロを採りに行った時、ネギボウズによく集まる事、アサツキの畑にその蝶の多い事、採ってきて三角ケースをあけるとネギの様な香りのする事より、アカボシの奴もこの香りに引かれるかもしれんと考えたそうな。
そこでネギボウズを10ケ程とり、密封してフリーザーに入れておいた。その時、ウスバシロの仔が早にこれだけ引きつけられるなら、アカボシの仔にも有効かもしれんと早だけを採り、これヌフリーザーに入れておいたそうな。
7月にネギボウズ、ウスバシロの早を魔法瓶に入れて渡道したんだそうな。
前の年と同じ所でアカボシの通る所に置いてみた。しかし、連中は少しは気を引かれる様子はあっても、それにとまる事はなかったそうな。しぶとい彼は、その魔法瓶に幼虫を採り、冷しながら持って帰った。
食草と同じ科の観賞植物にタイツリ草と言うのが家の前にあったので、二、三頭に食わせてみた。しばらくして見ると、食痕がある。
彼は喜こんで残りの全部の幼虫もそれにつけた。しかし、連中は少し食べた後、動かなくなり、ついには皆死んでしまったそうな。
ただ一頭、成長の早く蛹化しかかっていた個体のみが蛹になった。
失敗はまだつづく。本には"翌年、羽化する"とあるので、冷蔵庫に入れておき、来年蝶にするか考え、蛹をシャーレに入れ、室の片角に置いておいた。
半月位して、フトそのシャーレを見ると、なんと翅のシワシワの蝶が死んでいるではないか。
彼はそのマッキイロの死骸を前になげき悲しんだそうな。しかし、彼は次の年、より大きな悲嘆にくれる事になるとは、少しも気がつかなかったそうな。

THAI、チェンマイ、チェンダウにて

井沢　国雄

金沢の蝶談会の皆様　こんにちは。木曽の山にも春が近づき、つ

い先立ってまで、冷たい灰色だった山の木々が、雨にうたれて芽吹き前の赤味を帯びた色になって、竹のあさぎ色、松の深い黒緑の間にあたたかくうき上って緑もえる山より、木曽に住む私には、春が近づいた色合いを感じさせてくれます。

さて今年の冬に昨年と同じ、タイのチェンマイ、チェンダウに蝶を採りに行ってみました。期間は'83.2.17～2.28まで。

チェンマイではワイキャウの滝、チェンダウケーブとチェンダウ・コイの山へ。今年は昨年より寒く、蝶の数が少なかった。

滝の水も多く、澄んでいて気持ちも良く、昼の暑い時など飲みたくなる様な水です。（タイの人達は皆んな飲んでいます。）

ワイキャウの滝の一番上まで行った事がないのですが、上へ登る毎に蝶相が変わり、私のようなズボラな人間でも毎日採集に行くのが楽しみな所でした。

その上チェンマイは食べ物のうまい所が沢山あり、女の人はきれいだし？目の覚める様なヨーロッパからの美女達が街をかっぽしていまして、楽しさを倍増してくれます。

さて、蝶の方ですが、滝の下の方はムラサキツバメ類、ミスジ、コタリアの黒いのやら、青いのやら、下翅のすそが白色の縁どりや青い縁どりのが5・6種類いました。

また、昼近くになると、キシタやカバシタアゲハ、コケムシイナズマ時にはルベンチーナと言う様な蝶もおりてきます。中ぐらいまで登ると、セセリやシジミが多くなって来ます。イチモンジ、コムラサキやフタオチョウ、ナガサキアゲハやベニモンアゲハ等が目につき、キシタ、カバシタアゲハ、カバシタゴマダラ、ミスジ蝶の仲間が採れはじめます。

このあたりの少し下に小さな茶屋があり、サラダにいれる川ガニがおいてあります。そのコウラやカニをわけてもらって更に上の方へ登ります。私が登る一番上へのポイントへ。

カニのトラップや小便、そして岩や草むらに水をかけたりして、昨年は大便にシュライベリーが来て二頭採れましたが今年は0ペケ、でも、トラップはやはりしかけた方が効率的ですね。

キャラクセスの茶色のがよく来ますが、時には白いのや、運が良ければ、パタラなんかも来ます。あとは、ルベンチーナ、エグリの午、ジャノメの何白いのや、スミナガシ、シロベリスミナガシ、ルリモンアゲハやキシタの午も目を上にあげるとゆっくり飛んでいます。

シジミタテハも数種います。コモンタイマイ、アオビイチモンジ、ミカドアゲハの仲間は急しそうに水を飲みに来てすぐに飛んでいってしまいます。

と書いた蝶が一日に来るとは限りませんが、数日滞在すれば、ま

んべんなく見れるでしょう。
三時を過ぎると、蝶は山の中に入っていってしまいます。キシタヤベニモンアゲハも下から上の方に帰ってきます。蝶の数は少なくなってきますが、パタラヤセセリはかなり遅くなっても出て来る事がありますので網に入れてみましょう。珍品もそんな時に採れます。
と言う様に一日が暮れていきます。のどが喝き、おなかもへってきます。下の茶屋で、小さなビールにオムレツでも作ってもらって腹ごしらえです。

---- つづく

〈採集地案内・6〉 岐阜県吉城郡神岡町

嶮峨井 淳郎

この界隈は、現代でもけっこう冬季暖房用に薪炭が幅をきかせている。国道41号線を走ると、所々に薪が山の様に積みあげてあるのが目につき、カミキリ屋にはすこぶる好POINTとなり、訪ずれた方も何人かいる筈。
特に7月下旬～8月中旬にかけては、ルリボシカミキリが多産し、産卵中の雌や交尾中の雌雄がベタベタという感じで瑠璃色の美しい輝きは、命名のROSALIAはまさにピッタリである。
奥峰潮へ通じる富山県境大多和峠までの林道は、毎年5月頃まで通行が遮断され、4月、5月に発生するムシについてはあまり知られていない。
この辺りで採れる蝶としては、ギフチョウ、ウスバシロチョウ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、コヒョウモン、コヒョウモンモドキ（筆者の発見によるもの、未発表）、ギンイチモンジセセリ、コキマダラセセリ、コムラサキ、クジャクチョウ、キベリタテハ、オオミスジ、ミスジチョウなどでゼフィルスはミドリ、アイノ、メスアカ、フジ、エゾ、ジョウザン、オナガミズイロオナガ、ウスイロオナガ、アカ、ウラクロ、ウラキンなど一通り採れる。
特に大多和～大多和峠間の好ポイントはゼフの宝庫といわれる程個体数が多く、ジョウザンミドリの乱舞（午前）、エゾの乱舞（午后）、メスアカの乱舞（夕刻3～5時）と見事に占有時間を分け、メスアカミドリの貴重な頃には、ここへわざわざ採集に出向いたものである。
残念ながら秋の味覚のシーズンより再び通行止めとなり、採卵の好機には入山できず、ムシ屋にとっては誠に不都合である。
国道41号線をはさんで反対側にヒサマツが採れるんだから、きっとこちらの大多和側にもいるんだろうと思っていたら、1982年秋、

吉村久貴氏によってヒサマツ卵が発見された。
前述のルリボシカミキリの頃に、オナガシジミも多数得られるが、近年、金沢周辺に豊産が確認できたので、そんな必要もなくなった。同時期、有峰湖まで上ってしまえば、ムモンアカも採れる。

ギンイチモンジセセリ	6月上～中旬
オナガシジミ、ルリボシカミキリ	7月下～8月中旬
大多和ゼフィル、コヒョウモンモドキ	6月下～7月上旬
有峰湖周辺ゼフィルス	7月中旬
〃　ムモンアカシジミ	8月上～中旬

【シリーズ案内&書評】

第8回　AMICA '82. Dec.（通巻27号、富山県昆虫同好会編）

嶮峻井　淳郎

昨年（1982年）創立30周年を迎えた隣県の雄、富山県昆虫同好会はその記念事業として昆虫展、記念採集会を催し、更に今回AMICA記念特集号が発刊の運びとなった。
実に301頁に及ぶ大冊で、かねがね富山勢のやることはスゴイとセンボーとネタミの気持ちを有しているが……当貧乏蝶談会ではまず真似の出来ない事業であります。（当会が30周年を迎えるのは25年先のことだから、あるいは可能性有？　生きていれば筆者は65才ウヒャー。ヒョッとして3回忌かも……野中氏談）
筆者が17年程前に一度逢ったことのあるパント氏こと故赤阪義順氏のなつかしい姿が載っており、昔日ビールをくみかわした事が走馬燈のように思い出される。
本会所属の水野透氏が「立山のギフチョウとヒメカンアオイ」「富山県東部山地のギフチョウとカンアオイ類の分布」「富山県におけるミヤマシジミ分布詳報」他を執筆されている。
なお、大野豊氏の「富山県における（高山）蝶の保護対策」については、実例がナマナマしく、ゾッとしない面がないでもないが、本当のところをまげずにパトロール結果を発表している点については、痛しカユしの人もいることだろう。
とにかく富山県は、コワーイのだぞ。//

《お知らせ》

◇ 石川県産蝶類分布調査 ー普通種の記録集積についてー

'83年3月12日開催の例会の決定事項より再度確認のため作業単位と担当者を掲載しておきます。

ジャノメチョウ科	松井夫婦	ゼフレメ外シジミ	野中
ギフ・ヒメ・アサヤ	〃	アサギマダラ・テング	吉岡
各種パピリオ	吉村	ウラギンシジミ	吉岡
ツマキ・スジボソ	井村	その他・シロチョウ科	松田
ヒョウモン	中西	各種写真	竹谷・小幡
Neptis	吉村芳	各種記事・文献	嶮峨井
タテハ(その他)	近藤		

目　　次

アサマシジミ成虫の非常に早い発生記録例 ---------- 吉村 久貴 --- 1
白峰村におけるゼフィルス採卵記録 ---------- 嶮峨井 淳郎 --- 1
オオミドリシジミの斑紋異常型 ---------- 野中 勝 --- 2
1982年ゼフィルス最盛期の医王山 ---------- 岩下 泰子 --- 3
想い出ばなし その2 失敗つづき ---------- 金子 二久 --- 5
THAI チェンマイ チェンダウにて ---------- 井沢 国雄 --- 6
〈採集地案内・6〉
岐阜県吉城郡神岡町 ---------- 嶮峨井 淳郎 --- 8
【シリーズ案内&書評】
第8回 AMICA '82 Dec.（通巻27号 富山県昆虫同好会編）
---------- 嶮峨井 淳郎 --- 9

翔 №43　　1983年9月20日(火)発行

発　行：金沢市大場町東871-15 松井正人方・百万石蝶談会

校正・編集：吉村 久貴